

# 新 医 協

発行所 新日本医師協会  
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-10-2 日高ビル 4 F  
TEL 03-3988-8387 FAX 03-3983-6165  
振替 00170-9-180753  
http://shinikyo.com/  
Eメール: honbu@shinikyo.com  
月2回5・20日発行 年間購読料 5,000円

本協会は、国民  
の生命と健康を  
守り、国民本位  
の医学・保健・  
医療・福祉の進  
歩をめざす。

会長

今田隆一

副会長

冲山明彦

田村道子

松本和美

宮地典子

事務局長

会沢智也



二〇二二年 元旦

# 謹賀新年

## 年頭にあたって

新医協会長 今田隆一

新医協会員、役員、事務局の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年、11月の総会と全国研究会、各種研究会、勉強会、部会活動、そして医学評論誌の上梓など、困難な状況にあっても新医協は、その存在意義を十分に示すことができました。今年もまた皆様の熱意とエネルギーに支えられて、自主的民主的学術団体としての本領が発揮できる1年にしたいと考えております。

## 専門領域の枠を超え

新たな課題に向かって前進を

― 社会保障 ―

公衆衛生の充実をめざして―

さて新年にあたり、恐縮ですが、私的なことを書かせていただき、ご挨拶に代えたいと思っております。

6年前に公益財団法人の理事長職を定年で退職し、その後は認知症診療と慢性期の神経疾患を対象とした外来を担当することになりました。その際、考えたのは改めて「神経疾患を専らにする一人の医師として、臨床に邁進する」ことでした。認知症を持つている方々との付き合い合いが増えて行くはずでしたので、「患者・家族・地域との対話を大事にした外来」診療を追究しようと思ってきました。

手術と脳卒中急性期治療を主にした脳神経外科診療を担当していたときは、患者・家族との会話は対話というよりは診断結果を「宣言」し、治療方針を「説明」し、本人並びに家族には要望を「伺い、相談する」、どちらかといえば一方の情報伝達の傾向が強いものでした。また患者本人は意識障害があったり、麻酔下であったりと、意思決定能力が低下している時間が長く、多くの場合には家族による代理決定によらざるを得ない状況にありました。脳神経外科自体の中にも、そういうある種のパターンリズムを許容する雰囲気がありました。



私は外来における対話をどのようなものかから考えて行くこととなりました。時代は「根拠に基づく医療」をベースに、「患者の語る物語に基づく医療と意思決定」となっていました。しかしながら症状としての失語症や記憶障害、抑うつや不安、悲哀、寂寥感などの精神心理状態は、認知症を持つ患者にとって語るべき物語を変容させ、傾聴すべき私にとっては了解困難なものとなり、また対する言語的・パラ言語的介入をも困難なものとなさせます。

この2年間、言語について様々な学習し、また精神医療・認知心理学などにについても浅学非才の身を顧みずに書物を読んできました。しかし最も心に響いたのは様々な領域と分野、職種で構成される新医協会員の言葉でした。その言葉に大いに励まされてまいりました。

新年にあたり、新医協が今後も引き続き、そのような会であってほしい、との願いを申し上げてご挨拶とさせていただきます。

会長としても新医協が大いに発展する年になりますよう、全力を尽くす決意であります。